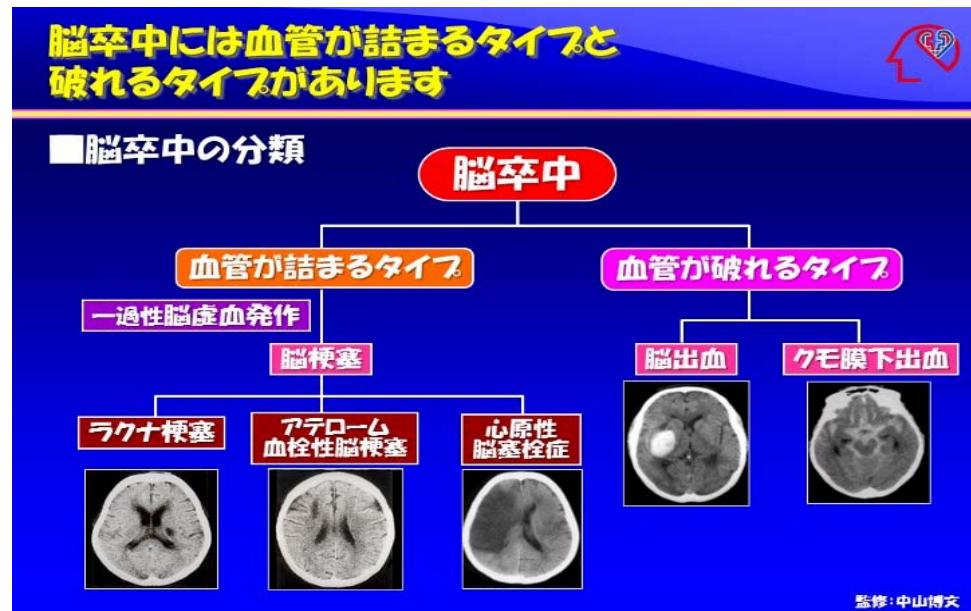


# 金丸脳脊椎外科クリニック



平成 29 年 10 月 6 日(金)午前9時より  
診療開始

平成 29 年 9 月 1 日(金)午前 9 時より  
診察予約、脳ドック予約開始



## 最新治療

1

脳梗塞の最新治療は、発症後 4 時間半以内、できれば 3 時間以内に TPA などの血栓溶解剤を点滴し、詰まった脳血管を再開通させることです。また、再開通できなければカテーテル治療を行います。

2

脳出血の最新治療では、内視鏡を用いて、低侵襲的に出血を取り除くことができます。

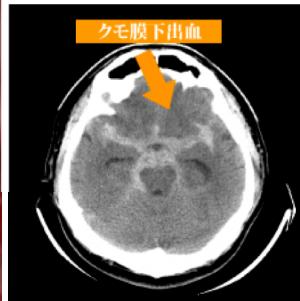
## 脳卒中の予防、診断、治療、リハビリテーションを行います

脳卒中には、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つのタイプがあります。脳梗塞は、脳血管が血栓などによって詰まることによって、脳組織に血液が届かなくなり、神経細胞がダメージを受けることによって起こります。脳出血は、脳の内部の細い血管が切れて脳の深いところに出血が起こります。くも膜下出血は、脳動脈瘤や脳動静脈奇形が破裂して、脳の表面に広い範囲で出血が起こります。脳卒中のいずれのタイプにおきましても、早期発見、早期治療が大切です。

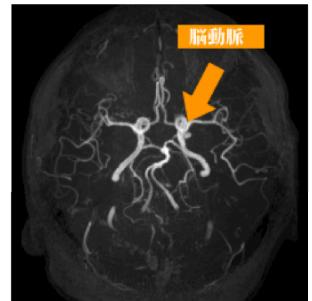
# 脳動脈瘤とくも膜下出血の最近の治療方法



未破裂脳動脈瘤



実際のCT画像

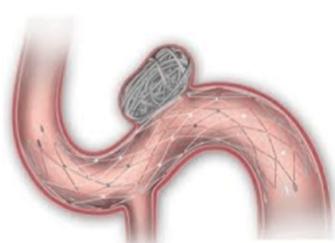


MRA画像

これまで、開頭して、脳を分けて行って、動脈瘤の頸部をチタン製のクリップでつまむ手術が行われていましたが、最近では頭を切らずにカテーテルを血管内に挿入し、動脈瘤の内部をコイルで詰めて、出血を止める方法が増えています。

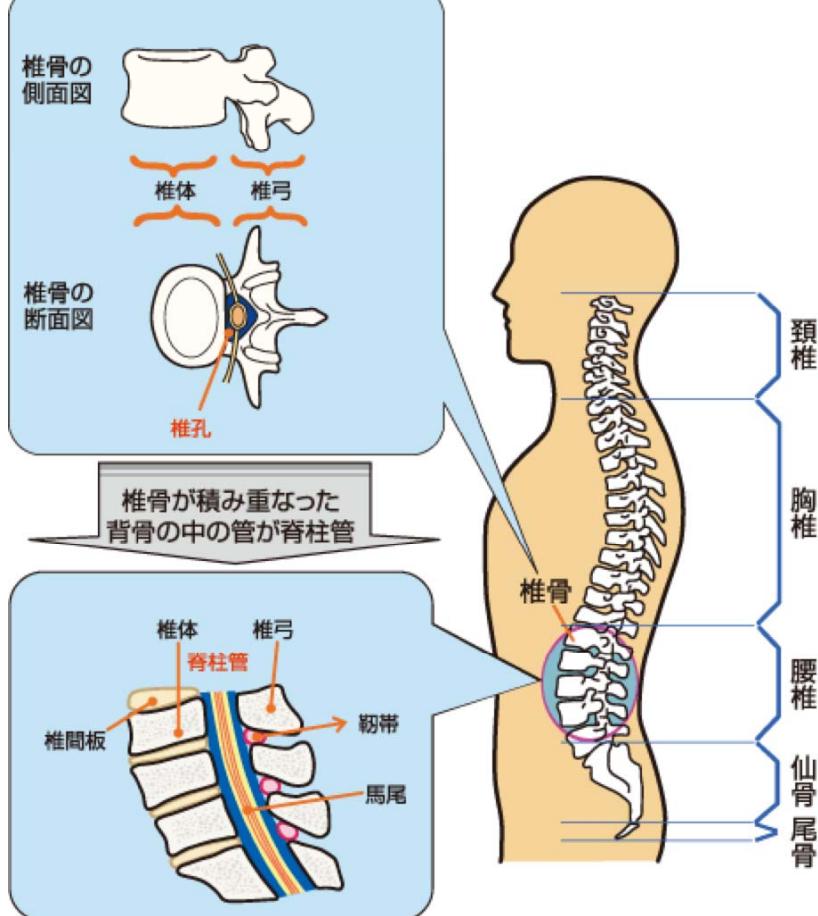
動脈瘤は、脳血管の分岐部に風船状に膨らんでできるもので、大きさも5mm以下の小さなものから25mm以上の巨大なものまで様々な大きさのものがあります。全ての動脈瘤が治療の必要があるのではなく、出血しやすいものを選んで治療する必要があります。

最近の報告では、出血を来たしやすい動脈瘤は、少なくとも5mm以上の大きさで、形のいびつなもの、前交通動脈瘤、内頸動脈後交通動脈瘤分岐部、椎骨脳底動脈系などにできたもの、以前にくも膜下出血をきたしたことのある患者、一親等以内にくも膜下出血の患者がいる場合、動脈瘤が徐々に増大している場合、若い人、日本人、などが挙げられています。また、治療法としては、カテーテルを使ったコイル塞栓術が増えています。また、コイル単独では、動脈瘤が閉塞できなければ、このようにステントで補助してコイル塞栓術を行います。



# 脊椎疾患の治療

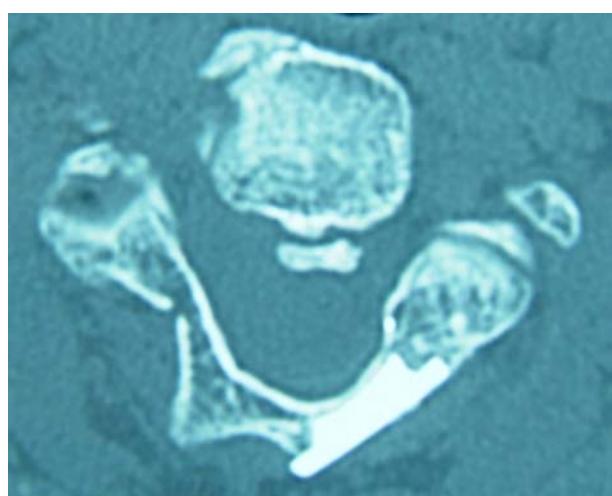
切らずに直す腰痛症



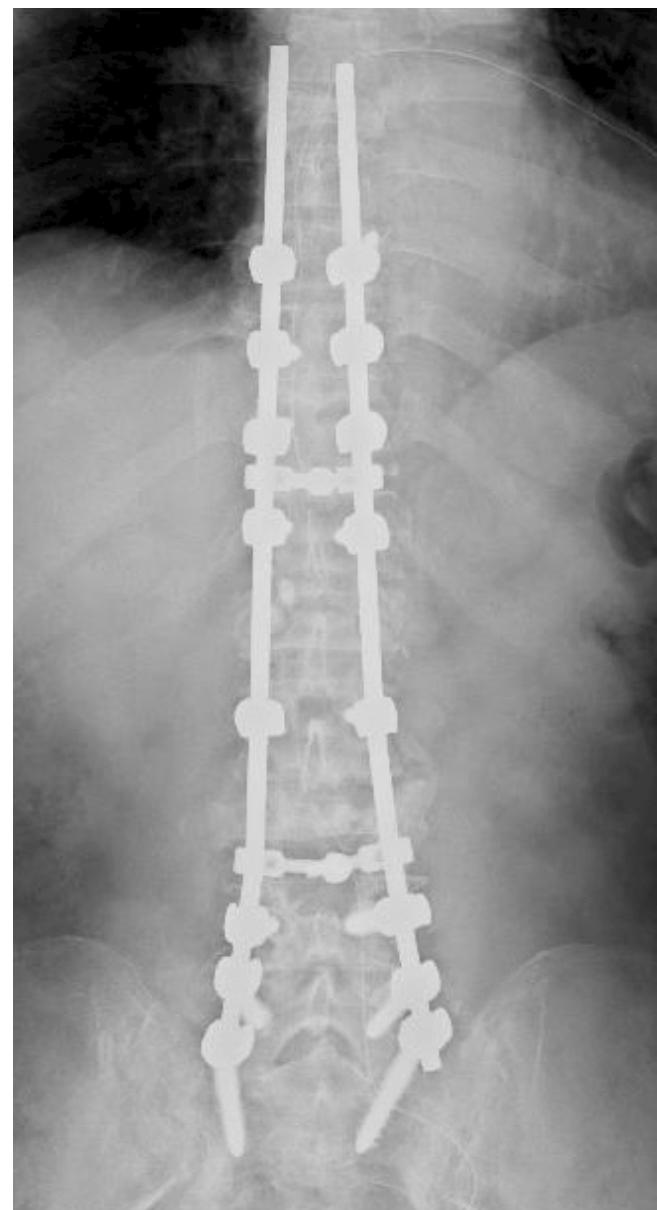
人は、直立歩行するようになってから腰痛になりやすくなったと言われます。上図のように、頸椎は緩く前方に弯曲しており、胸椎は後方に弯曲し、腰椎は頸椎同様に前方に弯曲しています。加齢による変形や外傷などによって、これらの弯曲に異常を来たした場合に、腰痛や手足の痺れ、麻痺が生じます。弯曲の異常が進行しない初期であれば、筋トレや腰痛体操などの運動療法によって症状がなくなることが多いです。一方、症状が進行し、痛みがひどく、手足の麻痺、歩行困難などが起こった場合にはリハビリ、鎮痛療法、薬などの効果が無ければ、手術治療が必要となります。当院の金丸院長は、頸椎300例、腰椎400例の手術経験があります。特に、頸椎の椎弓形成術は独自に開発したセラミックスペーサーを使用して、良好な結果を得ています。右図は、術後1年半後の後縦靭帯骨化症の例ですが、セラミックスペーサーは、完全に

(続)

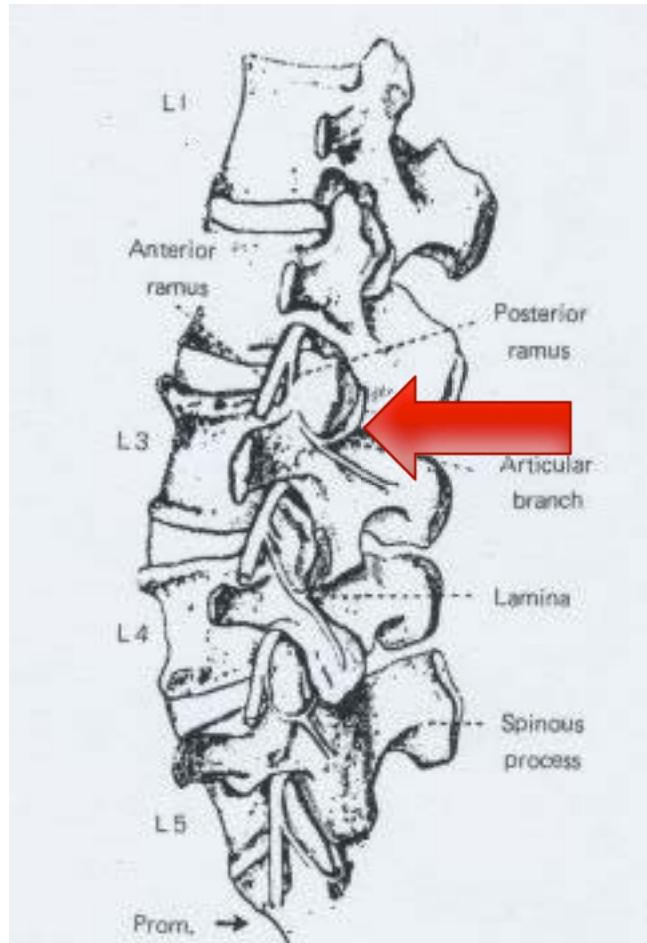
脊椎の病気は、主に頸椎と腰椎に発生することが多いです。頸椎では、頸椎症、後縦靭帯骨化症、腰椎では椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症が頻度の高い病気です。



骨癒合しています。腰椎の手術は、主として後方除圧術を行いますが、右図(上)のように左側から椎弓切除を行い、両側の椎間関節は温存し、棘突起も温存して将来不安定性が生じないように工夫しております。一方、高齢者の骨粗鬆症の例では、繰り返す圧迫骨折に対して、右図(下)のような長い後方固定術が必要な場合があります。いずれにしましても、個々のケースに応じた治療法をテラーメイドに行うのが、脊椎疾患の治療には重要な点だと言えます。



最近では、切らずに直す腰痛症の治療法として、高周波凝固という方法があります。右図の赤矢印は脊髓感覚神経の後内側枝と言われている感覚神経ですが、椎間関節に分布する痛みの神経です。この神経が、関節の変形や側弯症、脊柱管狭窄症などで刺激され腰痛が生ずる場合があります。このような場合は、この関節の部分に局所麻酔をして、高周波凝固を 70 度 120 分施行すると痛みが消失します。必ずしも、痛みが 0 となるケースばかりではありませんが、少なくとも痛みは軽減することが多いです。



また、最近では臀部の仙腸関節の緩みや炎症によって痛みが生じる仙腸関節症に対しても高周波凝固治療を行なっております。

最後に、腰痛に対しては基本的に運動療法が最も重要だと考えております。加齢による体幹四肢の筋力低下によって全身の痛みが生じる場合が多いので、1日一回30-40分の運動をしていただきたいと思います。

